

## ● シカ食害防止対策について

岐阜県内の多くの地域では、植栽後のシカ食害防止対策が必要不可欠になりつつあります。現在あるシカの主な食害防止対策は、忌避剤散布、ツリーシェルター、防鹿柵の3種類です（図1）。忌避剤は農薬の一種で、散布後の苗木をシカに不味いと感じさせることで食害を防ぐ対策です。ツリーシェルターは苗木に被せることで物理的に食害を防ぐ対策です。防鹿柵は、植栽した場所にシカが侵入できないように柵で囲い、苗木を食害から守る対策です。これらの対策にはそれぞれ、ぜひ知っておいていただきたい気を付けるべき点があります。

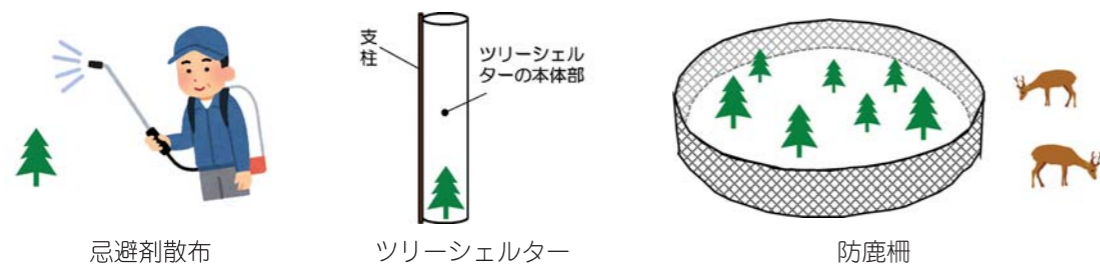


図1 3種類のシカ食害防止対策

## ● 資材の破損の可能性は？

ツリーシェルターや防鹿柵は様々な要因で破損します。強風により苗木とともに資材がなぎ倒されたり、雪の重みによる支柱折れ、防鹿柵のネットのずり落ちが起こります（図2、3）。さらに防鹿柵は、広い面積の造林地を囲うために土砂が堆積、崩壊しやすい沢・谷や30度以上の急傾斜地形へ施工されていることがたびたびあります。このような地形では柵が破損しやすいことがわかっています（図4）。



図2 積雪により支柱折れ、本体の潰れが起こったツリーシェルター



図3 積雪によりネットがずり落ちた防鹿柵



図4 崩壊した土砂により破損した防鹿柵

施工した資材が破損すると食害防止効果がなくなります。特に、防鹿柵は1ヶ所でもシカの侵入口ができると保護した全ての苗木が食べられるリスクにさらされることから、柵が破損しやすい地形への施工を避けたり、支柱を増強して、あらかじめ壊れにくくしておくことが重要です。また、ツリーシェルターや防鹿柵の施工地は、台風の通過後や雪解けの時期に見回り、資材の破損を早期に見つけて補修を行う必要があります。そうすることで食害防止効果を長持ちさせることができます。

## ● 食害防止対策の効果は？

3種類の対策は、食害防止効果に違いがあります（図5）。ツリーシェルターはウサギの食害からも苗木を守ることができ、非常に高い食害防止効果があります。一方、防鹿柵の場合、シカの食害を防ぐことはできますが、施工の際に柵内からウサギを追い出すことができなかつたり、ウサギが通過できるネットの網目サイズの場合、ウサギの食害を防ぎきれないことがあります。さらに忌避剤は、シカの生息密度が高い地域では効果がありません。食べる植物が他になれば、忌避剤がかかってもシカは苗木を食べてしまいます（図6）。また、現在市販されている忌避剤のなかで、シカとウサギ両方の食害に使用できるものは限定的です。

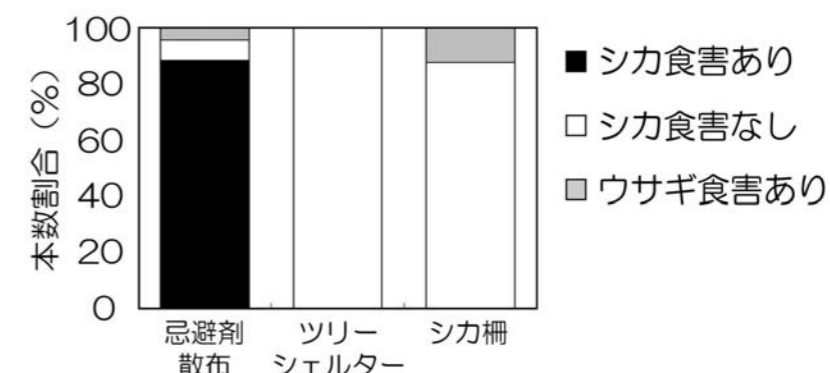


図5 シカ生息密度が高い地域における食害防止対策の効果  
忌避剤は年2回（春・秋）散布した。

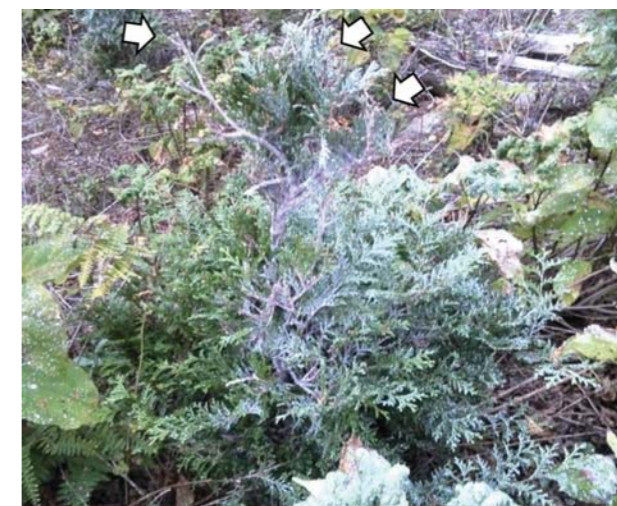


図6 シカに食害された忌避剤散布後のヒノキ苗木

造林地のシカの生息密度やウサギの生息状況によって、効果のある食害防止対策が変わってきます。対策の施工前に造林地の環境をよく知っておくことが、効果的な対策の選択につながります。また、図5でみられるようなツリーシェルターと防鹿柵の食害防止効果を長期間、最大限に発揮させるためには、資材が破損した場合の早期修復が必要不可欠です。施工して終わりではなく、獣害対策においても樹木を管理するという長期的な視点を持ち、施工後の維持管理が重要となります。